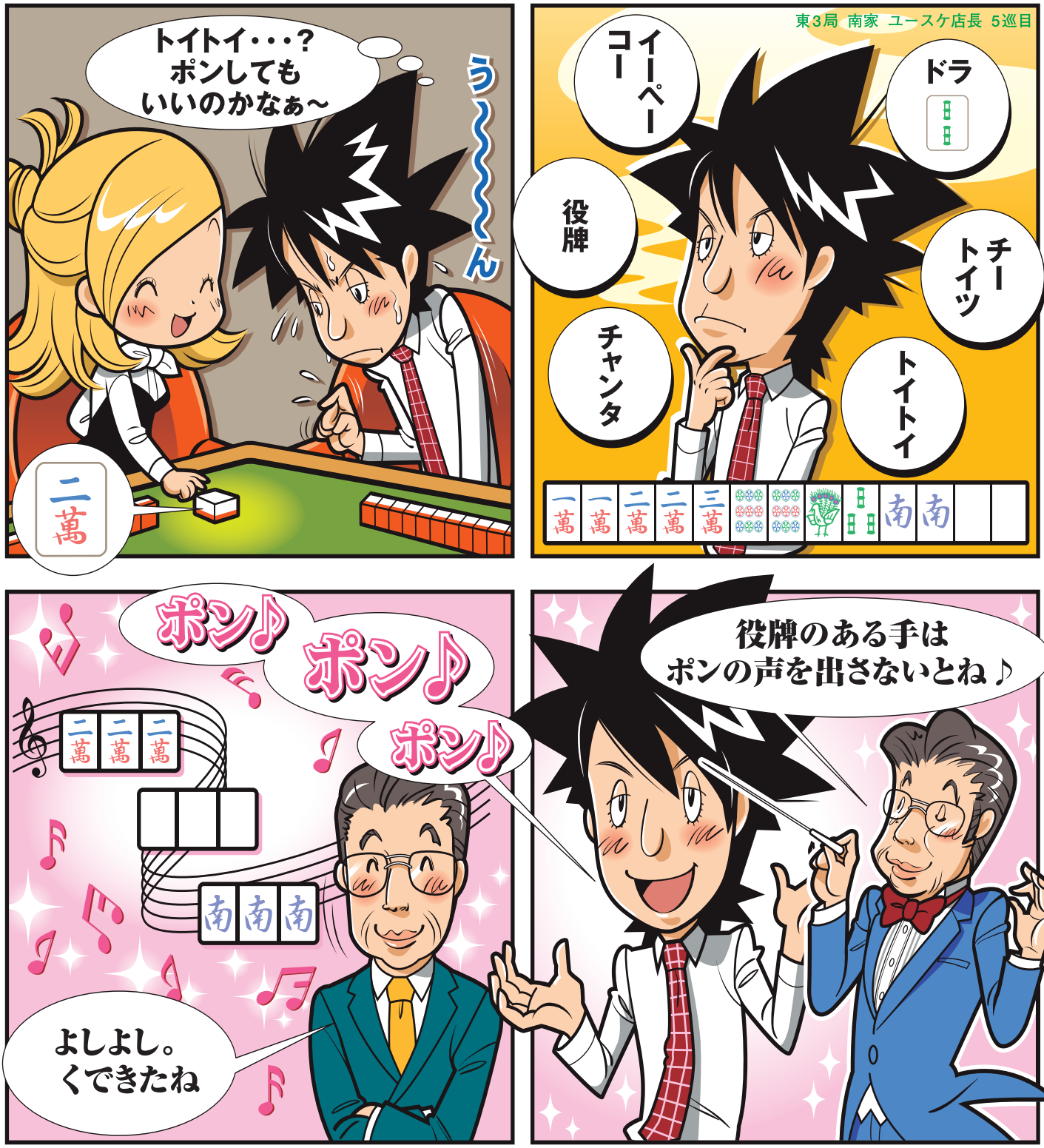
新 サルでも分かる実践麻雀講座 in リーチ麻雀さかえ

第２回

トイトイとチートイツの分岐点の巻



イラスト／鯱子

《リーチ麻雀さかえ》http://www.h-sakae.com

土田浩翔のワンポイントアドバイス
役牌含みのトイツ手はトイトイを狙え

前号でも書きましたが、チートイツとトイトイの分岐点は、手牌の中にあるトイツの特徴によって決まります。すなわち、他家の手からこぼれやすい牌がトイツならポンしやすいという道理が成り立つ訳です。

更に付け加えれば、役牌がトイツに含まれている手牌は、チートイツで終わらせるのはもったいないと思っています。役牌には役牌の役割があるわけで、チートイツに限った話ではなく、トイツのまま収束させるのは本質的な打ち方ではありません。

また、ドラのトイツが入っている手牌に関しては、それが役牌であれコーツにならない限り、トイトイに向かうのは危険です。

トイトイは、手中にあるトイツが8割方ポン出来そうな見込みが立った時に仕掛け始めるべきです。

図Aをご覧下さい。

ユースケ店長の5巡目の手牌です。早くもチートイツのイーシャンテンになっています。ただし、店長の頭の中では、ドラの[illegible]が入ったときには、[illegible]を外してチャンタ・イーペーコー・役牌・ドラ1という構想もありました。なので、チートイツのイーシャンテン手牌とはいえ、重なりやすい牌を残していくという考えは全くありませんでした。

ところが9巡目にあっさり[三萬]を引いてしまった店長(図B)。まだチャンタ・イーペーコーへの手替りがあり、リーチにも踏み込めぬ中途半端な状態になったままです。さて、こういう打ち方が果たしていいものかどうか、私には大いなる疑問となってしまうのです。

図Aをもう一度ご覧下さい。

役牌の[南]と[illegible]がトイツで入っていることはもちろんのこと、他家が捨ててきやすい[一萬]や[illegible]もトイツになっています。こういうケースはとてもマレで、これこそトイトイへまっしぐらの典型的手牌なのです。

とくに手牌にある5つのトイツのうち、最も出にくい[二萬]がポン出来るようであれば、この手はトイトイで仕上がったも同然です。

例えば[二萬]からポン仕掛けて、図Cのように3フーロしたとしても他家が[一萬]や[illegible]を止めきることはとても難しいことだと思います。ましてや、図Dのように、アンコが2組もあるトイトイ手は、他家が防ぎようもなく、この手牌の醍醐味になっているのです。

チートイツとトイトイの選択の仕方、少しは理解してもらましたか。

×〈感心しない七対子テンパイ〉×

東3局 南家 ユースケ店長

図A　5巡目

ドラ

図B　9巡目

七対子のイーシャンテンにこだわり過ぎると、時として大物手を逃すことにもなる

○〈躍動感溢れる対々和テンパイ〉○

東3局 南家 ユースケ店長

図C　10巡目

図D　12巡目

ポンポンと仕掛けていくと無防備になりやすいが、攻撃は最大の防御にもなりえる

土田浩翔プロ プロフィール

昭和34年　大阪市にて生まれる
昭和55年　小樽商科大学入学　師・仲澤青龍門下へ
昭和61年　プロ試験合格
昭和62年　第1期新鋭リーグ優勝
平成2年　日本麻雀大賞　最優秀新人賞受賞
平成7年　第11期鳳凰位戦優勝
平成8年　麻雀『夢道場』オープン
平成18年9月 日本麻雀機構理事長就任
タイトル暦【第11、22期鳳凰位、第26期王位、第9期最強位、第2回麻雀グランプリ優勝、第22期十段位】